さんむのふるさと散歩 NO.18

山武市内の『城』

昨年、日曜のお茶の間の注目を集めた大河ドラマ「風林火山」では、武田方・上杉方、その他多くの武将たちが、自国の要衝に城を築く一方、領土拡大を目指し、盛んに敵の城を攻撃する様子が放映されていました。目をその頃の山武市に転じると、ドラマと同じような攻防が城を舞台に繰り広げられていました。

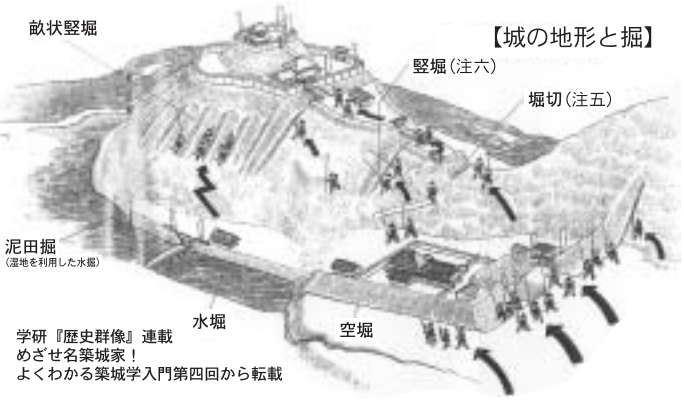
では、山武市内にはその当時（中世～戦国期）の城がどれくらい残されているのでしょうか。小高春雄著「山武の城２００６」によると、確実なものだけで、山武地区７・成東地区７・松尾地区３の計17か所存在します。また、市内に残された城の構造はどのようなものだったのでしょうか？当時の城の一般的な概念図を下段に示します。

城というと、お膝元に賑やかな城下町を形成し、水堀と石垣に囲まれた天守閣の中で武将が日常の生活を送る様子を想像しがちですが、この頃の城は、日常の生活空間ではなく、戦の時に使用する純粋な軍事施設で、山の上を削りだして土塁・空堀（注一・二）を築き、板塀や土塀・柵から構成されていました。

日常の生活は平地や低い台地に作られた館（注三）と呼ばれる住居に暮らしていました。そして、非常の際に近くの山の上に築いた城にこもったのです。

市内の城で比較的当時の状況で残っているものとして、山武地区森の城府城・成東地区津辺の津辺城などがありますが、山林内に所在し私有地であるため、誰でも見学可能というわけではありません。

【城の地形と掘】



学研『歴史群像』連載
めざせ名築城家！
よくわかる築城学入門第四回から転載

そこで、どなたでも見学が可能で城の構造が観察できる場所を紹介します。

成東地区に所在する成東城です。成東城は城址公園として一郭（注四）～三郭が保存されており、公園内では土塁や空堀を観察することができます。

一郭内には火災除の神として祀られた愛宕神社の外、城の盛衰を見守ってきた樹齢４３０年と言われるモミ・ブナの大木が時の長さを感じさせてくれます。また三郭からの眺望はすばらしく、成東市街が眼下に一望できます。

城を見学すると、城主はどんな人物だったのか気になるところですが、諸説あり築城当時からしばらくの間ははっきりとしていません。今判っている範囲では、千葉氏の流れを汲む鳴東千葉氏が数代を重ね、その後徳川家康の家臣・石川康道が城主となります。現在見られる土塁や堀は、石川氏が城主の時代に手を加えたものだとも言われています。そして、石川氏が他所へ国替えとなった一六〇一年に廃城となりました。

今、城内は冬枯れの季節ですが、春になると桜が満開になり見事です。一度訪ねてみてはいかがでしょうか。

（下の成東城の復元鳥瞰図・二葉は「余湖君のホームページ」から転載したものです。また資料収集に椎名幸一氏にお世話になりました）

（注一）土塁。土を盛上げて築いた防壁・斜面

（注二）空堀。水をたたえぬ堀。

（注三）館。藁葺きや板屋根に掘立柱・板壁・土壁の建物からなる住居。

（注四）郭（かく・くるわ）。城壁や堀で区画された範囲。

（注五）堀切。山の尾根筋を切断する堀。

（注六）竪堀。山の等高線と直角に交わる形の堀。連続させると畝状竪堀になる。

【成東城の主要部・右図の城址公園拡大図】

【成東城の復元・鳥瞰図】

☎／市外局番の記載のないものは『0475』です